

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		中村 英詞		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111					
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	芸術専門課程		デザイン科 プロダクトデザイン専攻		平成22(2010)年度		-		平成26(2014)年度		
学科の目的	デザインや立体造形など、プロダクトデザインに共通する基礎から、イメージを形にする手法、機能性とデザイン性を両立させるノウハウ、CADやCGのスキルまで幅広く習得。家電、家具、雑貨など、あらゆる身近な工業製品(プロダクト)のデザインを実践的に学びます。多様な製品のデザイン実習を通じて、プロダクトデザイナーとしての総合力を身につけます。										
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	ビジネス能力検定ジョブパス3級、色彩検定3級・2級、アドビ認定プロフェッショナル(Photoshop) 中退率: 4%										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,490 単位時間	510 単位時間	0 単位時間	2,310 単位時間	0 単位時間	0 単位時間		
				単位	単位	単位	単位	単位	単位		
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率					
240 人の内数	50 人		0 人		0 %	4 %					
就職等の状況	■卒業者数 (C)		17		人						
	■就職希望者数 (D)		16		人						
	■就職者数 (E)		16		人						
	■地元就職者数 (F)		14		人						
	■就職率 (E/D)		100		%						
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		88		%						
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		94		%						
	■進学者数		1		人						
	■その他										
	(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有										
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL										
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/design/design/product/										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)										
	総授業時数					2,820 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間					
	うち必修授業時数					2,190 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間					
	(B:単位数による算定)										
	総授業時数					単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数					単位					
うち必修授業時数					単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					1 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人					
	計					2 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					1 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

デザイン分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。カリキュラムについては年度ごとに総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
浅野 健	印刷工業会 副会長 株式会社金羊社 代表取締役会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
才丸 大介	株式会社カオルコーポレーション 企画戦略室・室長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
荒井 良隆	株式会社文神 クリエイティブ制作部 デザイン課	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院八王子専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
山口 恵美子	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
山口 恵美子	日本工学院八王子専門学校 科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年09月30日 14:00～16:00

第2回 令和7年03月31日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

昨年9月に行った教育課程編成委員会では実際に学生作品を見学していただき、作品のレベルを高く評価いただいた。デザインの概念を広げるとともに高齢者向けの需要が高まっているのご意見や、専攻の枠を超えた提案についてご指摘いただいた。今年3月の委員会では作品のレベルについては高く評価していただいたが、社会へ出てもすぐに退職してしまう現実(企業の実例)を踏まえたうえでよりコミュニケーションを重視する授業や、Webデザインのスキル向上をカリキュラムに取り入れることをご提案いただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学科担当教員と企業との間でデザイン技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し、実際に授業を行う。授業の成果物をもとに企業担当者が採点し、学科担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
総合実習1	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	プロダクトの課題制作を通して、表現特性について学びます。	株式会社THTマネジメント

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	近未来のノンリニアな映像コンテンツを創造するために、いま知っておくべきこと	連携企業等:	株式会社クリーク・アンド・リバー社
期間:	2024年9月24日(火)	対象:	デザインカレッジ・クリエ イターズカレッジ教員
内容:	欧州DVB-NIPを例に、放送とインターネット融合によるノンリニアでゲーム的な映像コンテンツの最新動向と学生が将来直面する、エンターテインメントのこれまでにない進化に対応するためのスキルについて。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	合理的配慮研修	連携企業等:	東京工科大学 医療保健学部
期間:	令和6年11月19日(火)	対象:	全教員
内容:	2024年から義務化された合理的配慮の概要、重要性、そして本校での取り組みについて理解を深め実際の場面で自信を持って対応できるようになるための一歩。□		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「IPの作り方と広げ方」 (株)ストーリーテリング代表取締役イシイ ジロウ氏	連携企業等:	株式会社クリーク・アンド・リバー社
期間:	令和7年8月6日(水)	対象:	デザインカレッジ教員
内容:	IPとは／10年以上続くIPと短命に終わるIPの差／キャリアにも影響する仕事選びとIPの価値／多様化する資金調達手法と卒業後の進路		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「効果的な授業のための生成AI・ICTの活用について」 東京大学 中澤明子氏	連携企業等:	株式会社クリーク・アンド・リバー社
期間:	令和7年8月6日(水)	対象:	全教員
内容:	生成AI・ICTツールの基礎と最新動向、教員の業務効率化における活用事例、授業における生成AI・ICTツールの活用方法と中高でのAI教育事例		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応(活用)方法は以下のとおりです。

1. 留学生支援・国際交流の充実

評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求められています。また、英語圏以外の国々からの学生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が望ましいとの意見がありました。

2. 教育内容・学習環境の向上

委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。

3. 地域連携・社会とのつながり

地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。また、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。

4. 多様な学習者・進路支援への対応

委員からは、総合型入試を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求められています。

5. 学生支援・メンタルヘルスの充実

学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教職員の対応力向上も重要視されています。また、健康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられています。

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

- ・日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します。
- ・地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。
- ・教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の質を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。
- ・社会人や非全日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びのニーズに応える体制づくりを今後の課題としています。
- ・メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和7年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 デザイン科 プロダクトデザイン専攻)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネススキル	社会人に求められるマナーやコミュニケーション能力について学びます。	1	30	2	○			○		○		
2	○			デザイン史	デザインの領域とその変遷について学びます。	1	30	2	○			○			○	
3	○			デザイン論 1	人間工学や、社会におけるプロダクトデザインの役割について学びます。	1	30	2	○			○		○		
4	○			基礎デザイン実習A	鉛筆によるデッサンやスケッチを通じて観察力、基礎描写力を身につけます。	1	60	2			○	○			○	
5	○			基礎デザイン実習B	さまざまな素材を使いながら立体・空間構成力を身につけます。	1	60	2			○	○		○		
6	○			基礎デザイン実習C	形態、素材、色彩、構造について学び、平面構成力を身につけます。	1	60	2			○	○		○		
7	○			基礎デザイン実習D	PC用デザインツールのIllustrator、Photoshopの知識と基礎技術を身につけます。	1	60	2			○	○			○	
8	○			総合実習 1	プロダクトの課題制作を通して、表現特性について学びます。	1	120	4			○	○		○	○	○
9	○			キャリアデザイン 1	デザイナーとして働くための知識を身につけます。	1	30	2	○			○		○		
10	○			デザイン研究 1	さまざまなデザイナー、表現者の作品を鑑賞します。	1	30	2	○			○		○		
11	○			デザイン論 2	プロダクト製品の材料や仕上げなどデザイナーに不可欠な知識を身につけます。	1	30	2	○			○		○		
12	○			デザイン実習 1 A	デザインに関する知識と技術を学び、作品を制作します。	1	60	2			○	○			○	
13	○			デザイン実習 1 B	情報が効果的かつ魅力的に見えるデザインの技術とルールについて学びます。	1	60	2			○	○		○		
14	○			デザイン実習 1 C	CAD・CGソフトの基礎知識と技術を学びます。	1	60	2			○	○			○	
15	○			総合実習 2	プロダクトの課題制作を通して、表現特性について学びます。	1	120	4			○	○		○		
16			○	資格対策講座 1	専攻に係る資格取得に向けての講座です。	1	30	2	○			○		○		
17			○	デザイン研修 1	研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	1	30	1			○		○	○		
18	○			キャリアデザイン 2	自己分析に基づき進路を考えます。	2	30	2	○			○		○		
19	○			デザイン論 3	マーケティングの手法を理解し、企画を立案するプロセスを学びます。	2	30	2	○			○			○	
20	○			デザイン研究 2	仕上げや材料などデザイナーに不可欠な知識を身につけます。	2	30	2	○			○		○		
21	○			デザイン実習 2 A	幅広くプロダクトデザインの知識と技術を学びます。	2	60	2			○	○		○		
22	○			デザイン実習 2 B	CAD・CGの技術を利用し、自分のアイデアを表現する技術を学びます。	2	60	2			○	○			○	
23	○			デザイン実習 2 C	課題制作を通じてさまざまな素材(マテリアル)の特性を理解します。	2	60	2			○	○			○	
24			○	プロダクトデザイン実習 1	工業製品や雑貨などデザインの知識と技術を学び、作品を制作します。	2	60	2			○	○			○	
25	○			総合実習 3	実践的課題を通じて作品を制作します。	2	60	2			○	○		○		

26	○		キャリアデザイン 3	就職活動に関するノウハウを学びます。	2	30	2	○			○		○		
27	○		デザイン論 4	デザインに関する法規や知的財産に関する知識とデザイナーに必要な批評眼を養います。	2	30	2	○			○		○		
28	○		デザイン研究 3	さまざまなデザイナー、表現者の作品を鑑賞します。	2	30	2	○			○		○		
29	○		デザイン実習 3A	幅広くプロダクトデザインの知識と技術を学びます。	2	60	2			○	○		○		
30	○		デザイン実習 3B	CAD・CGの技術を利用し、自分のアイデアを表現する技術を学びます。	2	60	2			○	○			○	
31	○		ポートフォリオ制作	就職活動用に、自分自身をアピールするための作品集を制作します。	2	60	2			○	○		○		
32		○	プロダクトデザイン実習 2	工業製品や雑貨などデザインの知識と技術を学び、作品を制作します。	2	120	4			○	○			○	
33	○		総合実習 4	実践的課題を通じて作品を制作します。	2	60	2			○	○		○		
34		○	資格対策講座 2	専攻に関係する資格取得に向けての講座です。	2	30	2	○			○		○		
35		○	資格対策講座 3	専攻に関係する資格取得に向けての講座です。	2	30	2	○			○		○		
36		○	デザイン研修 2	研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	2	30	1			○		○	○		
37		○	インターンシップ 1	デザインの仕事を体験するため、実際に会社で短期研修を行います。	2	60	2			○		○	○		
38	○		キャリアデザイン 4	就職活動に関するノウハウを学びます。	3	30	2	○			○		○		
39	○		デザイン実習 4A	プロダクトデザインの応用的な内容について実習で学びます。	3	60	2			○	○			○	
40	○		デザイン実習 4B	写真と動画の撮影、加工、編集について学びます。	3	60	2			○	○			○	
41	○		実践課題制作	企業や地域と連携した実践的な課題制作を行います。	3	120	4			○	○			○	
42		○	プロダクトデザイン実習 3	工業製品や雑貨などデザインの知識と技術を学び、作品を制作します。	3	120	4			○	○			○	
43		○	キャリアデザイン 5	就職活動に関するノウハウを学びます。	3	30	2	○			○		○		
44	○		デザイン実習 5	実践的な課題制作を行います。	3	60	2			○	○		○		
45	○		卒業制作	各自またはゼミのテーマに基づき 3 年間のまとめとしての作品を制作します。	3	360	12			○	○			○	
46		○	デザイン研修 3	研修を通じて、デザイナーとしての視野を広げます。	3	30	1			○		○	○		
47		○	インターンシップ 2	デザインの仕事を体験するため、実際に会社で短期研修を行います。	3	60	2			○		○	○		
合計					47	科目	2820時間 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業時に必修科目2190時間(86単位)および選択科目300時間(10単位)以上取得し、合計2490時間(96単位)以上取得すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：1年次は必須840時間履修すること。 2年次は必須660時間、選択科目180時間以上履修すること。 3年次は必須690時間、選択科目120時間以上履修すること。		1 学期の授業期間	15 週

選択科目の履修方法

1年次は必修840時間、選択科目0時間以上履修すること

2年次は必修660時間、選択科目180時間以上履修すること

3年次は必修690時間、選択科目120時間以上履修すること